世界の社窓から　～ウズベキスタン・活動開始編～

報告者 2022-1 二葉知久

2022 年 8 月 29 日（月）

ちょうどウズベキスタンに到着してから一か月が経った。それまでは、生活に慣れながら、語学学校に通い、ウズベク語とロシア語を学習していた。詳細は別の報告書にまとめようと思う。そろそろ活動について触れなくてはと思い、書き始めた。

配属先に初日挨拶ということで、N 調整員と O 現地職員と一緒に車で大学に向かった。実は私は 15 年ほど前、協力隊に参加した経験がある。よって、このような挨拶の流れというのはわかっていた。言葉が不自由なため、現地職員の O さんに通訳して学科長と話すのだろうと思っていた。

大学は語学研修中に、自分で地下鉄に乗って下見をしていた。際立って高い建物が車の窓から見えた。

そこは正面玄関で、だれも自由に出入りできないような造りになっている。

私達 3 人は、入り口前で、担当の人を待っていた。

20 代の背の高い男の人が現れた。語学の先生以外でウズベク人とまともに挨拶を交わしたのは、この人が初めてである。

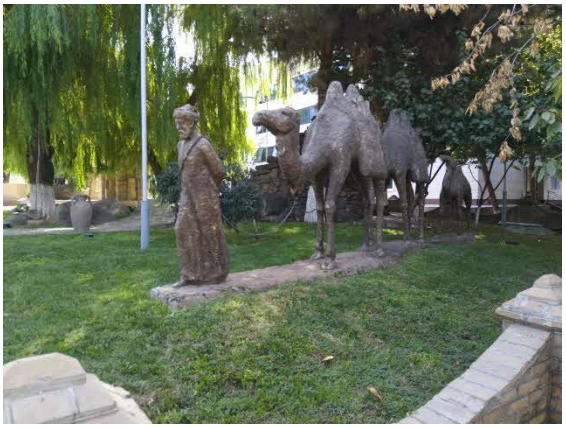
中を通り抜けると、広いキャンパスがあり、別の建物へ向かった。キャンパス内にサマルカンドという町にある建造物の模型があり、ラクダと人の銅像があり、エキゾチックな雰囲気であった。建物に入り、4 階まで階段を上り、一番奥の部屋へと案内された。

学科長と思われる女性に会った。Assalomu alaykum と私は言った。席に座り、N 調整員から、私について「日本で 3 か月語学研修を受け、日本語教師として派遣されました。よろしくお願いします。」と紹介された。

私は簡単にウズベク語で自己紹介をした。その後、日本語で活動内容について確認をした。

時間は 1 時間 30 分程だったが、課題や

世界の社窓から　～ウズベキスタン・活動開始編～

報告者 2022-1 二葉知久

問題点を明確にすることができた。